

# 大英博物館新収上方役者絵帖について

松 平 進

大英博物館の日本古美術部 (The British Museum, Department of Japanese Antiquities) に新収の上方役者絵帖一冊は、保存状態の均一的に良好な優品ぞろいであり、筆者未見のものも多くその構成にも興味深い点があるのでここに紹介したい。全体で一〇四枚八一点の上方役者絵を収めている。

- 一 綴帖一冊 (ただし現状は綴糸は切つてある) 縦三七・〇×横二六・〇 糹
- 一 前・後表紙とも青色萬字つなぎ模様。
- 一 前表紙中央あたりに題簽二葉を貼付。(一) 縦一七・九横三・九 糹。墨書「豊川よし国筆」、上部にローマ字で同じ絵師名を記す。(二) 縦一八・〇横三・八 糹。墨書「戯画堂芦ゆき筆」、上部にローマ字で同じ絵師名を記す。
- 一 見返しに墨書「芦ゆき」「よし国」。それぞれローマ字で振仮名を記す。
- 一 はじめに芦ゆき作品三五五〇枚を収め、次によし国作品四六五五枚を収めている。
- 一 よし国作品の冒頭に白紙一枚挿入「豊川よし国画」と記し左側にローマ字の振仮名を記す。
- 一 綴じ穴は六か所。

綴糸を切つた状態ではあるが、内容物の順序は変えていないという博物館のタイム・クラーク博士の説明であつ

た。糸を切る前に番号がうたれ、その番号の順に配列され、前後表紙も元のままに置かれている。もとの綴じ方はかなり乱暴なものだったようで、版画の右又は左端に無雑作な綴じ穴があいている。恐らく版画のみを六か所穴をあけて綴じてあったものに、表紙を前後に付けてもとの穴を利用して綴じたものであろう。従って例えば二枚続の場合は右扇は画面の左、左扇は画面の右に穴があいていて、見開きで二枚続を鑑賞できるようになっている。三枚続の場合は、一枚が裏にまわることはやむをえない。

絵師は戯画堂芦ゆきと寿好堂よし国とに一応限られるが、問題は34の無款作品の絵師である。この絵は最後の摺りこみである墨色の文字摺りが欠落した版と思われる、他に所見のものによって丸丈斎国広の作品とわかる。芦ゆき・よし国に限った帖でありながら、無款作品一点を芦ゆきと見て混入させたものであろう。また前が芦ゆき・後がよし国と二分して綴じてあるため、合作品が別々に綴じられることになった。12の芦ゆき画阿波ノ十郎兵衛と97のよし国画女房お弓とは二枚続きであるが、離れて綴じられた。また37のよし国画の二枚続は、左側にもう一枚あって三枚続であり、芝国の作である。つまりよし国・芝国三枚続合作品のうち二枚のみとられることになった。

年代的にはきわめて限定されているといえよう。この帖の中でも最も早い発行は、38の文政四年三月角座所演の芝居に取材したものの、最も遅い発行は29・46の文政十一年正月の共に角座所演の芝居から取材したものである。この七年の間に限られる。上方絵が帖仕立になっている例ももちろん多くあるわけだが、このように整序された帖を見たことはない。絵師としては同時代に活躍していた春好齋北洲の作品が一点もとられていない。丸丈斎国広の作品も、無款のために混入した一点は別として、全くとられていない。この時期が最盛期の春曙齋北頂もとられていない。合作品の西光亭芝国を除くほどに、芦ゆき・よし国のみ限定している。描かれている役者をみると、特に限定はない。三世中村歌右衛門、二世嵐橋三郎はこの時期の二大名優だから多いのは当然だが、嵐富三郎も市川鰻十郎も沢村国太郎も中村歌六も見えている。大芝居役者のみならず、尾上芙蓉・百村百太郎・中村鶴助・中村歌蔵

という中ウ芝居役者もまんべんなくとられている。版元でも外題でも限定はなく、時代と絵師に関してのみである。そういう限定はなぜ行なわれたのだろうか。

まずこれは、ある限られた時期に行なわれた個人の収集であろう。保存状態がこのように均等に良好な帖は、特定の一人の収集で、常に摺り上がったばかりのものを購入して綴じ、その後散ることがなかった場合にのみ成立可能である。上方在住のごく普通の芝居好きが、文政四年から十一年までの間、自分の親しんだ芝居や役者の絵姿を買い求めていた。まずは特定の絵師に限ることもなく求めて、ある程度まとまった所で綴じたのであろう。綴じ方は決して近代のものではないし、甚だ素朴である。その収集が所蔵者の手をはなれ、何らかの経緯で商品化されることになる。つまりこの場合外国人愛好家向けに整えられた時に、一つの選別が行なわれた。絵師を限定して帖に分けることである。「上方絵」という日本で普通に行なわれる大まかな分類ではなくて、写楽作品とか広重作品という絵師別分類である。それは厳密に行なわれ、芦ゆき・よし国の帖ができ上り、ローマ字入りの題簽が加えられた。例えば北洲の帖もその時作られたであろう。

次に収められている個々の作品の評価であるが、まずこの帖に筆者初見の作品が少なからずある。9の芦ゆき画二枚続き。久吉の橋三郎と阿野ノ局の歌六が、従来未見の作品であった。24の佐々木藏人の橋三郎。璃鶴の狂句入りの一枚も初見である。38の大判事の三津五郎と後室定高の歌右衛門は他の絵師でよく絵になっているが、芦ゆきのものは初見で図柄も面白い。95の中村三光口上図もこれまで未見で、いろ／＼興味深い問題点がある。96の歌六が扮する酒屋娘おみわもはじめて見たもので、図柄がいい。さらに初見のものとして、中ウ芝居役者たちの描かれているものが数枚ある。51の百村百太郎扮する奴妻平は堂々たる百太郎の立姿で、この無類の中ウ役者の絵姿のうちで、最もいい作品なのではないかと思う。52の甲斐之助に扮する尾上芙蓉、66の大星由良之助に扮する中村鶴助も全く他で見られないものである。65の座摩社内芝居で判官をやった中村歌藏は板木流用の版行だが珍しい作例で

ある。93の歌右衛門幼名をついだ中村福之助の口上図も全くはじめての絵である。この一帖の中からこれだけ多くの未見作品が出たことは大変有難くまた貴重である。さらに小島寿星コレクションが現在不明になっているために、現物披見ができず、この帖によらざるを得ないものも多い。27の歌右衛門のみの、庄九郎、32の濡髪・放駒に扮する額十郎・橋三郎、59の歌右衛門の蘭平などがそれである。

次に、年代考証が確実にできていない作品の年代の大体が推定できるという利点がある。例えば65の塩谷判官の中村歌蔵だが、座摩社内芝居ということが画面より確実にわかる。しかし座摩の番付というものは甚だ見ることがむずかしいため、年代の確実な所がわからない。しかし本帖に入っているのだから、文政の四年から十一年の間と見当をつけることができる。文政中期と推定することはそれほど見当はずれではあるまい。101の中村鶴助の石川五右衛門だが、その目ざましい活躍状況から、文政七年頃と推定しておいたのだが、一抹の不安があった。この帖に収まっているのだから、推定の大枠は保証できたといつてよからう。

以上この帖に関して概略述べたので、所収作品の紹介をしたい。なおこの帖の作品はかなりの部分が『浮世絵大観3大英博物館Ⅲ』にて紹介された。しかし帖の構成を示さず、帖以外のものとの区別もつけにくい形での紹介であった。今改めて完全な形で紹介するゆえんである。

### 所収役者絵一覧

#### 凡 例

- 1 帖の現状配列に従って通し番号をつけた。枚数によらず一作品一番号である。
- 2 画面に見えている文字は全て記載した。記載順は次の通りである。

進

平 松

番号 役名 役者名・代(算用数字) 絵師落款(印) 版元 彫摺師 賛・口上・台詞の類

3 画面に見えていないが説明のために私に加えた場合は、その文字を( )でくくった。

4 一枚に二人又はそれ以上の役者が描かれている場合は、列記した役者の最後の下方に、絵師落款・版元などを記した。

5 へにくくって、推定年月日・劇場名・外題を記した。劇場は角之芝居を角、堀江市の側芝居を堀江市側のように、判断できる限りで省略して記した。

6 \*印を付けて、補足説明を加えた。ただし続き物の揃い不揃い、板木の流用、異版や別版などを中心に簡略にとどめた。

1 浪花江南雪景色 沢村国太郎<sup>2</sup> 市川団蔵<sup>5</sup> 尾上菊五郎<sup>3</sup> 戯画堂芦ゆき写 綿喜板

浪花江南雪景色 中村歌右衛門<sup>3</sup> 中村三光 浅尾国五郎<sup>2</sup> 戯画堂芦ゆき写 綿喜板

浪花江南雪景色 中村歌六<sup>1</sup> あらし小六<sup>4</sup> あらし橘三郎<sup>2</sup> 戯画堂芦ゆき写 綿喜板

市川鰻十郎<sup>1</sup> 戯画堂芦ゆき写 綿喜板

〈文政九頃、大判三枚統〉

2 さくら丸 あらし橘三郎<sup>2</sup> 芦ゆき あき惣

〈文政五・一一、中、菅原伝授手習鑑、大判一枚〉

3 鈴木孫市 嵐橋三郎<sup>2</sup> 芦ゆき画 本清

〈文政八・三、中、絵合大閣記、大判一枚〉

4 たる屋おせん 嵐富三郎 戯画堂芦ゆき写 綿喜

里見伊助

あらし橋三郎<sup>2</sup>

戲画堂芦ゆき写

綿喜

5 布袋市右衛門

嵐橋三郎<sup>2</sup>

芦ゆき画

綿喜

6 (安部保名 中村歌右衛門<sup>3</sup>)

〈文政八・三、中、男作五雁金、大判一枚〉

芦ゆき画

置

気ちかいの水うりさかす暑さかな 芝翫

ホリエカ スリエソ

〈文政七・五、堀江、芦屋道満大内鑑、大判一枚〉

7 (口上図) 嵐橋三郎<sup>2</sup> 市川蝦十郎<sup>1</sup>

戲画堂芦ゆき画

窓 ワタキ

市川蝦十郎口上 高ふは御坐り升れども御免御ゆるしの蒙りこれより申上升やうに御ざり升 先御町中旦  
 那樣はじめいづれも様ますく御きけんよく被為遊御坐恐悦至極に存じ奉り升 さて私儀永らくの間中村  
 歌右衛門とは同座出勤いたしました所 御ヒイキ厚くなし罷下ましたる段 身にあまり誠に無此上も大  
 慶至極にぞんじ奉り升ル 然ル所中村歌右衛門儀 思ひ掛なく一世一代いたされ しゅ尾よく舞台納めい  
 たされました所 私儀木から落たる猿同前<sup>(マエ)</sup>にていかゞ仕候哉とぞんじ居り升たる所 此度嵐橋三郎殿と  
 同座にて出勤仕候やう御ヒイキ御連中様より達て御すゝめによりまして 当盆かはり同坐仕相つとめ升ル  
 やうに御坐り升 御かはりなくこれ迄の通り御ヒイキの程 ひとへに奉願上り升ルやうに御ざり升 さて  
 これに扣居られ升あらし橋三郎殿義 いまだ若年に御ざり升れば なにとぞ旦那様方御ヒイキの余慶を持  
 まして 末くに至る迄嵐橋三郎名まへ相続仕り升るやうかへすくも御ヒイキのほど偏に奉願上升ル  
 嵐橋三郎口上 恐れながら高ふは御坐り升れども一寸これより申上升 たゞ今市川蝦十郎殿申され升通り  
 にて 私儀当盆かはりより同座仕 角芝居へ出勤仕升やうに御坐り升 誠にこの身にとりましては 外聞

かた／＼ありがたく仕合にそんじ奉り升る 旦那様かた御ぞんじの通り未熟不調ほふなるわたくし儀 何をいたしましても御目にとまり升るやうな事は御ざりませすとも 御名国の旦那様方に御ざり升れば 故人あらし橋三郎名まへいつく 迄もそうぞくいたさせやりたいと 御ヒイキのほどすみから角までつゝつとこひねがひあげたてまつり升ル

〈文政八・八、角、大判一枚〉

8 (口上図) 京都にて 中村歌右衛門<sup>3</sup>

芦ゆき画

利新

乍憚口上ヲ以まして申上升 御町中旦那様 益御機嫌亘敷被為遊御座候段いか計りか大慶至極に奉存上升 誠に私儀当春以来大坂表にて芸等相勤升処 毎々病氣に取合相休候へ共 少々快よく相成ますれば出勤仕升を 親類弟子とも大きにいたはりくれ 夫にてはからだがたまらぬと申 大阪芝居は此狂言限に御暇乞いたすべしとのすゝめゆへ 皆／＼の言葉に随ひ大阪表芝居義は 先以御暇乞芸相勤 名も加賀屋市兵衛と相改申候 然る処御当地様御義は 是迄も年来格別に御鬣被為成下 冥賀至極難有奉存升に付 御氣嫌御窺申上度 当芝居へ不相変不調法芸等相勤入御覧升 何とぞ賑々敷御来駕被下 是迄に十倍増たる御鬣之程奉希升れはと□ 加茂川の流の末の末迄もスイと御評ばん奉願上升

9 真柴久吉 あらし橋三郎<sup>2</sup>

芦ゆき画

(欠)

阿野ノ局 中村歌六<sup>1</sup>

芦ゆき画

(欠)

〈文政八・三、中、給合太功記、大判一枚続〉

10 呉ふくや十兵衛 嵐橋三郎<sup>2</sup>

戯画堂芦ゆき画

本清

〈文政九・九、角、伊賀越道中双六、大判一枚〉

11 うきすの岩松 市川緞十郎<sup>1</sup>

戯画堂芦ゆき画

綿喜

百姓十作

嵐橋三郎<sup>2</sup>

戲画堂芦ゆき画

綿喜

女房おきぬ

沢村国太郎<sup>2</sup>

十吉

あらし橘藏

戲画堂芦ゆき画

ワタキ

〈文政一〇・五、中、けいせい棧物語、大判三枚統〉

12 あはノ十郎兵衛

嵐橋三郎<sup>2</sup>

戲画堂芦ゆき画

(欠)

〈文政一〇・四、中、国訛嫩笈摺、大判一枚〉第①図

\*二枚統の右。左は後出のよし国画97番「女房お弓

沢村国太郎 寿好堂よし国画 (欠)」

13 里見伊助

嵐橋三郎<sup>2</sup>

戲画堂芦ゆき画

本清

たるやおせん

藤川友吉<sup>2</sup> 京四条於芝居ニ大あたりく

〈文政九・七、京四条北側、名作切籠曙、大判一枚〉

14 山田幸十郎

浅尾額十郎

戲画堂芦ゆき画

本清

女房おこう

沢村国太郎<sup>2</sup>

戲画堂芦ゆき画

本清

今木伝七

嵐橋三郎<sup>2</sup>

戲画堂芦ゆき画

本清

〈文政一〇・四、中、挙禪廓大通、大判二枚統〉

15 唐ノ千嶋之守

大谷友右衛門<sup>2</sup>

戲画堂芦ゆき画

本清

三うら又藏

嵐橋三郎<sup>2</sup>

戲画堂芦ゆき画

本清

〈文政一〇・正、中、けいせい遊山桜、大判一枚〉

16 娘お梶

藤川友吉<sup>2</sup>

戲画堂芦ゆき画

本清

娘小さよ

嵐富三郎

戲画堂芦ゆき画

本清



行長女房大淀 中村歌六<sup>1</sup>

戲画堂芦ゆき画

本清

〈文政二〇・正、中、けいせい遊山楼、大判三枚統〉

17 二ぞろの八八 市川鰻十郎<sup>1</sup>

戲画堂芦ゆき画

綿喜

ふか草ノ茂助 嵐橋三郎<sup>2</sup>

戲画堂芦ゆき画

ワタキ

〈文政一〇・正、中、けいせい遊山楼、大判一枚統〉

18 月本始ノ之助 嵐橋三郎<sup>2</sup>

戲画堂芦ゆき画

本清

娘かつら あらし富三郎

戲画堂芦ゆき画

本清

〈文政一〇・五、中、けいせい棧物語、大判一枚統〉

19 五斗兵衛 中村歌右衛門<sup>3</sup> 一世一代

芦ゆき画

綿喜  
ワタキ  
忠

和泉ノ三郎 市川鰻十郎<sup>1</sup>

芦ゆき画

綿喜

〈文政八・三、角、義経腰越状、大判一枚〉

20 野勘平 中村歌右衛門<sup>3</sup>

芦ゆき画

綿喜

〈文政七・五、堀江、芦屋道満大内鑑、大判一枚〉

21 おその 中村歌右衛門<sup>3</sup> 一世一代

戲画堂芦ゆき画

綿喜  
ワタキ  
忠

毛谷村六助 市川鰻十郎<sup>1</sup>

戲画堂芦ゆき画

綿喜  
ワタキ  
忠

〈文政八・三、角、彦山権現誓助剣、大判一枚〉

22 熊谷ノ次郎 おその

芦ゆき画

綿喜  
ワタキ  
忠

京極内匠 五斗兵衛 一世一代 中村歌右衛門<sup>3</sup>

芦ゆき画

綿喜  
ワタキ  
忠

〈文政八・三、角、(熊谷)一谷嫩軍記、(おその・京極内匠)彦山権現誓助剣、(五斗兵衛)

義経腰越状、大判一枚

23 月本始<sup>メ</sup>之助 嵐橋三郎<sup>2</sup>

〈文政一〇・五、中、けいせい棧物語、大判一枚〉

戯画堂芦ゆき画

(欠)

24 佐々木藏人 あらし橋三郎<sup>2</sup>

かたわらに色恥しや藪椿 璃鶴

〈文政六・正、中、けいせい品評林、大判一枚〉

戯画堂芦ゆき

(欠)

25 玄達 大谷友右衛門<sup>2</sup>

二石どう縫之助 あらし橋三郎<sup>2</sup>

〈文政六・五、堀江市側、いろは歌誉桜花、大判一枚〉

芦ゆき画

(欠)

26 つり船の三婦 市川団藏<sup>5</sup>

徳兵衛女房たつ 中村三光

〈文政七・七、京四条北側、夏祭浪花鑑、大判一枚〉

芦ゆき画

綿喜

27 みのゝ庄九郎 中村歌右衛門<sup>3</sup>

〈文政六・正、角、けいせい廓大門、大判一枚〉

芦ゆき画

利新

28 三うら又藏 嵐橋三郎<sup>2</sup>

虎之助 尾上梅藏

〈文政一〇・正、中、けいせい遊山桜、大判一枚〉

戯画堂芦ゆき画

本清

29 青柳太夫 藤川友吉<sup>2</sup>

百姓重作 中村歌右衛門<sup>3</sup>

戯画堂芦ゆき画

ワタキ

戯画堂芦ゆき画

ワタキ

30

石川五右衛門 中村歌右衛門<sup>3</sup>

〈文政一一・正、角、天満宮花梅桜松、大判二枚統〉

真柴久よし 市川鰻十郎<sup>1</sup>

戯画堂芦ゆき画

綿喜

五右衛門

ハハテ心得ぬ

今聞えたる笛の音に

帯せし劍の音を出すは

久よしハハは龍の吟ずる声

勅使の帯

つるまで

劍込 俱に音をなす同気の合体

スリヤ、うたが 疑ひもなき雌龍丸

そちが奪取所持せしよな

五ハホ、さすがの

此下よく知たり 汝が帯せし其刀も

俱に音をなす奇特 扱は雌龍の劍なるか

久ハホ、ヲいふにや及

こした

ぶ 足利累代雌雄の名劍がったいするは今時

雌龍丸請取ふ

五ハイ、ヤなんじが帯せし雄龍丸

こつ

ちへ渡せ

久ハ雌龍丸請取ふ

五ハイ、ヤなんじが帯せし雄龍丸

五斗兵衛

中村歌右衛門<sup>3</sup>

一世一代御名残狂言

〈文政九・七、中、木下蔭狭間合戦、大判一枚〉

芦ゆき画

畷

ワタキ 忠

桐山紋次

〈文政八・三、角、義経腰越状、大判一枚〉

芦ゆき画

本清

本清

31

濡髪長五郎 浅尾額十郎

芦ゆき画

本清

本清

32

放駒長吉 嵐橋三郎<sup>2</sup>

芦ゆき画

本清

本清

33

福まる 市川鰻十郎<sup>1</sup>

芦ゆき画

綿喜

綿喜

34

富丸 中村歌右衛門<sup>3</sup>

芦ゆき画

綿喜

綿喜

(毛)

〈文政六・九、角、敵討崇禅寺馬場、大判二枚統〉

(欠)

(欠)

(毛)

〈文政六・九、角、敵討崇禅寺馬場、大判二枚統〉

(欠)

(欠)

(けいせい) 小女郎 嵐富三郎

〔文政五・七、中、和訓水滸伝、大判一枚統〕

\*文字摺込みの落ちた版。別版は「毛剃九右衛門 市川蝦十郎 国広画 天喜 け

いせい) 小女郎 嵐富三郎 国広画 天喜」と記す。

(欠)

(欠)

35 石川五右衛門 中村歌右衛門<sup>3</sup>

〔文政九・八、中、木下蔭狭間合戦、大判一枚〕

戯画堂芦ゆき画

(欠)

36 (楽屋姿) 嵐橋三郎<sup>2</sup> 俳名璃鶴

女中かゝみのふたはり ヒイキヨリ よし国画

よし国画 ホリカ介

(欠)

(頼政) 嵐橋三郎<sup>1</sup>

〔文政五・九、中、頼政礪物語上演時の楽屋姿、大判一枚〕

\*大首絵。別版に「名は四方へ立つ花の香や冬の梅 寿好堂よし国」とあり。

37 娘おくめ 嵐小六<sup>4</sup>

よし国画

豊利

岩城忠太夫 浅尾工左衛門<sup>1</sup>

〔文政四・五、角、太平記忠臣講釈、大判一枚統〕

\*三枚統の右と中。左は「加藤与茂七 中村歌右衛門<sup>3</sup> 芝国画 豊利」

38 大判司清すみ 坂東三津五郎<sup>3</sup>

後室定高 中村歌右衛門<sup>3</sup>

よし国画

忠利新

〔文政四・三、角、妹背山婦女庭訓、大判一枚統〕第②図

よし国画

忠利新

39 たるや娘おせん 中村三光

よし国画

本清市

さとみ伊助

中村歌衛門<sup>3</sup>

よし国画

本清 市

40 里見伊助

中村歌右衛門<sup>3</sup>

よし国画

本清 泉理

娘おせん 中村三光

よし国画

本清 泉理

41 見立 十郎祐成 市川新升

〈文政五・八、角、名作切籠曙、大判二枚続〉

よし国画

綿喜

見立 工藤祐つね 嵐璃寛<sup>1</sup>

よし国画

綿喜

見立 五郎時宗 中村芝翫

よし国画

綿喜

〈文政四、曾我の牧狩見立て〉

\*新升は市川鰻十郎<sup>1</sup>、芝翫は中村歌右衛門<sup>3</sup>。

42 石川五右衛門 中村歌右衛門<sup>3</sup>

よし国画

泉理 本清

悴五郎市 嵐吉三郎<sup>3</sup>

よし国画

泉理 本清

〈文政五・九、中、釜淵雙級巴、大判一枚〉

43 (死絵) 木曾義仲 故嵐璃寛<sup>1</sup>

よし国画

本清

〈文政四・九没、軍法富士見西行、大判一枚〉

\*璃寛は文化六・九、中でこの役に扮す。その当り役を没時に刊行。

44 けいせい豊鶴 中村歌六<sup>1</sup>

浪花よし国画

(欠)

〈文政五・九、萩芝居、敵討義恋柵、大判一枚〉

45 馬かた与作 小川吉太郎<sup>3</sup>

よし国画

本清 貴

46 紀長谷雄 市藏改市川鰻十郎<sup>2</sup> よし国画 置吉  
 紅梅姫 藤川友吉<sup>2</sup> よし国画 置吉  
 孔雀三郎 中村歌衛門<sup>3</sup> よし国画 置吉

47 佐々木丹右衛門 嵐橋三郎<sup>2</sup> 豊川よし国画 本清  
 〈文政一一・正、角、天満宮花梅桜松、大判三枚続〉

48 宿弥太郎 嵐橋三郎<sup>2</sup> 寿好堂よし国画 泉理  
 〈文政九・九、角、伊賀越道中双六、大判一枚〉

49 今木伝七 小川吉太郎<sup>3</sup> 宮島大芝居におゐて 大当りく 伝  
 御ひいきを載くかやの御裾かな 浪花みね国 よし国画

〈文政六・夏、宮島、挙禪廓大通、大判一枚〉

\*文政五頃の利新版の板木流用か。「今木伝七 尾上芙蓉<sup>3</sup> よし国画 忠 利新、寒こへを誦ふ意やはやせ  
 梅 芙蓉」(『上方芝居絵展』昭和六〇年国立劇場、五四図参照)

50 今木伝七 嵐橋三郎<sup>2</sup> 豊川よし国画 本清

借 菊一文字の鏢の内見 出船の日のべ 名山太夫の見請上<sup>2</sup> のつびきさせぬ恩に恩 義理に義理をば  
 重ねし此扇 絵面は時雨の葉にいろ斗ましぬれて しつぱりしつくりと拾本立のくるひなき 地紙に  
 あつきおんを見せ 絵そらごとにならぬやう こゝがかなめ所しやナア引

進 平 松

51 奴妻平 百村百太郎  
〈文政一〇・四、中、拳揮廓大通、大判一枚〉  
よし国画 泉理

52 栗しま甲斐之助 尾上芙蓉<sup>3</sup>。  
〈文政五・一一、大西、増補薄雪物語、大判一枚〉第③図  
豊川よし国画 本清

53 源三位頼政 登り徳三郎改 嵐橋三郎<sup>2</sup>  
故人嵐橋三郎一周忌追善狂言  
よし国画 本清 泉理

54 熊谷次郎直実 中村歌右衛門<sup>3</sup> 一世二代  
〈文政五・九、中、頼政鶴物語、大判一枚〉

寿好堂よし国画

本清

55 五斗兵衛 中村歌右衛門<sup>3</sup> 一世二代  
〈文政八・三、角、一谷嫩軍記、大判一枚〉

よし国画

本清

56 おその 中村歌右衛門<sup>3</sup> 一世二代  
〈文政八・三、角、義経腰越状、大判一枚〉

よし国画

本清

57 月本円秋 市川団蔵<sup>5</sup>  
〈文政八・五、中、秋葉権現廻船語、大判一枚〉

寿好堂よし国画

本清 玉置

58 さねもり 関三十郎<sup>2</sup>  
〈文政九・一二、角、源平布引滝、大判一枚〉

よし国画

ワタキ

59 奴蘭平 中村歌右衛門<sup>3</sup>  
〈文政九・一二、角、源平布引滝、大判一枚〉

豊川よし国画

ワタキ 兵善

60 俊寛 中村歌右衛門<sup>3</sup> 一世二代  
〈文政一〇・四、堀江市側、在原系図、大判一枚〉  
寿好堂よし国画 本清

61 寿式三番叟 中村鶴助、師中村歌右衛門一世一代御名残舞台  
〈文政八・四、角、姫小松子日遊、大判一枚〉  
よし国画 (欠) 本清

62 勝間伝五兵衛 中村歌右衛門<sup>3</sup>  
廻し弥助 浅尾奥山<sup>2</sup>  
〈文政八・三、角、寿三番叟、大判一枚〉  
豊川よし国画〔芳〕 本清

63 団七九郎兵衛 中村歌右衛門<sup>3</sup>  
団七は京都ふようて大あたり類ひ浪花の加賀屋名人 鶴勢堂  
〈文政九・九、中、五大力恋緋、大判一枚〉  
よし国画〔鶴〕 利新

64 布袋市右衛門 嵐橋三郎<sup>2</sup>  
\*落款下の印〔鶴〕は、版元又は売捌店鶴勢堂か。別版は狂歌を欠く。  
へなにはになにし五人づれ。だてなすがたで尺八の。たれの目にたつ紋所。みるかりかねの文七が。中間がしらとさきたちて へわらひ上戸のほていどの。厂かね組の跡おさへ。一ケも二もない市右衛門。そろふすがたのきおひだて  
寿好堂よし国画 本清

65 塩谷判官 中村歌蔵 座摩社内芝居におゐて  
〈文政八・三、中、男作五雁金、大判一枚〉  
しら菊や色一しほの美しさ 亀人 よし国画 利新



〈文政中期、座摩芝居、忠臣蔵、大判一枚〉

\*文政九年の利新版と版木流用関係。前後不明。「京都四条芝居におゐて 塩谷判官 浅尾額十郎<sup>1</sup> よし国

画 利新<sup>1</sup> 文政九・七、京四条北側、仮名手本忠臣蔵。

66 大星由良之介 中村鶴助<sup>1</sup>

よし国画

利新

〈文政六・月不明、大西、日本花赤城塩竈、大判一枚〉第⑤図

67 (死絵) 松王丸・団七九郎兵衛 百村百太郎 俳名虎青

播州明石芝居におゐて生涯御名残狂言大当りく

文政六未年七月二日終 真覚虎青信士

御好ニ付 よし国画

天喜 サ

〈文政六・七没、大判一枚〉第⑥図

68 梅のよし兵へ 市川滝十郎

てつち長吉 沢村源之助<sup>2</sup>

よし国画

本清 置

〈文政九頃、若太夫か、隅田春妓女容性、大判一枚〉

69 佐野源左衛門 中村芝翫<sup>2</sup>

見ところもあらし夏野のさくら麻 芝翫

寿好堂よし国画

本清

〈文政九・七、中、男夏鉢の木、大判一枚〉

70 奴岡平 中村福之助

よし国画

本清

〈文政七頃、座不明、けいせい廓源氏、大判一枚〉

71 五じやう軍甘輝 中村歌右衛門<sup>3</sup>

よし国画

置 本清

〈文政七・九、角、国姓爺合戦、大判一枚〉

72

中村歌右衛門<sup>3</sup> 百奇園庭前納涼之図

\*三枚統の中。右は「錦昌女 市川国蔵」。よし国画 置 本清、左は「和藤内 市川蝦十郎<sup>1</sup> よし国画 置 本清」。

悴中村駒之助

よし国画

豊利

〈文政四・七〉

\*百奇園は歌右衛門の号。駒之助は三世の養子。

73

(口上図) 中村歌右衛門幼名相統 中村福之助

浪花よし国画〔芳洲〕

綿喜

名古屋芝居口上 一先以御当所御旦那様方 益御機嫌能被遊御座恐悦至極奉存候 随而私儀御当地芝居江 出勤可仕様御最眞御旦那様方より被仰下候得共 未幼年と申生得不調法者に御座候故 御辞退申上候処達 而出勤可仕様御すゝめ披成下候に付 右之御詞にすぎり御叱も不顧出勤仕候間 悪敷処は宜御差図を以帰 坂後師匠にしかられませぬ様 御最眞御取立之程 偏に奉希上升 長口上ハ恐れくくくく 鶯やおほ つかなくも敷はなれ 福之助 こたひ福之助の初たひを祝して 墨くろに御国の文字を筆はしめ 来芝 弟子福之助御ひいきの有かたさに 初売にふきのとうからねかひかな 芝翫

〈文政六・二、橋町芝居、大判一枚〉

\*来芝は嵐三五郎<sup>3</sup>、芝翫は中村歌右衛門<sup>3</sup>。

74

(口上図)江戸 尾上菊五郎<sup>2</sup>

寿好堂よし国画

本清

御目見へ口上 先以御当所御町中御旦那様方 益御機嫌能御座被遊恐悦至極に奉存升ル 随而私儀七ヶ年 己前久々にて罷登り御目見へ仕 不調法なる天竺徳兵へ 水狂言に取組相勤申升たる処 存之外御意に叶 ひ大入大繁昌仕 全ク御最眞御取立之御余光ト江戸表へ之外聞旁未熟成身に取升て 第一番に有難仕合奉

存升ル 扱其砌今暫ッ打続出勤も可仕と奉存升たる処 内外少々入組升たる訳合ムリ升て 俄に江戸表へ立歸り升たる処 明ヶ暮御当所之御目見へ懐敷存居り升ル折柄 此度太宰府天満宮へ心願ムリ升て参詣ヲ仕 又々御当所ニて御目見へ仕 先年之御礼やら色々取ませ 御呵をも返り見ず角の芝居へ出勤仕り升ルゆへ 前年ニ御替らせのふ 御鼠肩御取立之程 乍恐すみからすみ迄つらりと奉願上升ル

〈文政八・一一、角〉

75 中村三光 顔見世座附口上

寿好堂よし国画

忠

高ふはムリ升れど一寸是より顔見世御目見へやら又は身分の不調法御断を申上ルルやうにムリ升ル 中はむら三光と申升て 御そんじもなき大不調法者でムリ升ル 何とそ御ヒイキ御取たてのよけいを持升ていつく迄もかやうなありかたの御め見へにかけ升ぬやう すみからすみ迄ずいとねがひ奉り升ル 常盤なる昔の名には呼はれてもいたらぬ芸のまた若みとり 松鱸亭三光

〈文政四・一一、中〉

76 酒屋娘おみわ 中村歌六<sup>1</sup> 浪花ヒイキ舟越 角市

浪花画工よし国画

(欠)

〈文政五・四、萩芝居、妹背山婦女庭訓〉

77 女房お弓 沢村国太郎<sup>2</sup>

寿好堂よし国画

(欠)

〈文政一〇・四、中、国訛嫩笈摺、大判一枚〉第①図

\*二枚統の左。右は前出の12番「あはノ十郎兵衛 嵐橋三郎 戯画堂芦ゆき画(欠)」。

78 かん相丞・覚じゆ 坂東津五郎<sup>3</sup> 此所早替り大当りくく

高よし国画

利新

〈文政五・正、角、菅原伝授手習鑑、大判一枚〉

79 かみゆひ太助 嵐橋三郎<sup>2</sup> 御ひたい月代々拾六文

よし国画

利新

80

(豆まき) 中村歌右衛門<sup>3</sup>

親玉のはるとつけぬるとし越はうち込まめのいりのつよさよ

〈文政四頃〉

すりざこば 御好に付よし国画

鶴芝駒成

⊗ 忠

81

石川五右衛門 中村鶴助<sup>1</sup>

〈文政七頃、大西、金門五三桐、大判一枚〉

よし国画

本清



①あはノ十郎兵衛・嵐橋三郎, 女房お弓・沢村国太郎



②大判司清すみ・坂東三津五郎, 後室定香・中村歌右衛門



④ 栗しま甲斐之助・尾上芙蓉



③ 奴妻平・百村百太郎



⑥ 松王丸 団七九郎兵衛・百村百太郎



⑤ 大星由良之介・中村鶴助